



仲間への“思いやりのこころ”

## グッドフェロー賞

「Good fellow」＝「良い仲間」(直訳)＝スポーツマンシップ

### H.Sさんと K.Aさん

～Jr. スクール金D(小1のふたり)～

金曜日のDクラスでは今まで、Sさん(小1)とAさん(小1)の2人が受講していました。そこへ2週間ほど前、幼稚園児のHくんが体験に来ました。

幼稚園児にとって外の世界は、新しいことだらけ！好奇心と不安が入り交じった不思議な感覚を抱くものです。Hくんはコートに入る時、ちょっとだけもじもじしました。

「Sと、A。H君を連れてきてくれないかな？」

コーチがそう話すと、「は～い♪」

二人は元気に走り出し、Hくんの両手をとって

「コートを通るんだよ♪」

「私、もう走ったけど、一緒に走ってあげる♪」

そう言って、3人で仲良く走り始めました。

その後も二人は、何かとH君のことを気にかけてくれます。

「順番を待つときは、ここに座るんだよ♪」

「上から下に投げるんだよ♪」

SさんとAさん、まるでコーチみたい(^o^)

Hくんにとっても、二人のお姉さんができましたね♪



表彰を受ける

**SさんとAさん**

(真ん中はHくん)

### T.Nくん

～Jr. 選手育成コース(小6)～

Jr. 選手育成コース(Jr. チーム)のN君は、小学生の部の最年長、小学6年生です。チームでは「強くなる」＝「自分の能力を伸ばす」ことがメイン活動ですが、「スポーツマンシップを身につける」というもうひとつ大きな柱がその外側にあります。

N君はボールを拾うとき、自分のコートだけではなく、隣のコートや低学年の子たちのコートまで行って、一番最後までボールを拾っています。

「あそこにボールがたくさん落ちているよ！」

下の学年の子たちに指示もできます。

ポイントマッチで年下の子と仲間になったとき、年下の子がうまくプレーできずに落ち込んだりすると、N君は声をかけます。

「大丈夫！絶対できるよ！」

「怒っちゃだめだよ！頑張るぞ！」

スポーツマンシップの中の「リーダーシップ」です。

仲間に対する思いやりの心を持てるN君は、立派なリーダーになれると思います。



表彰を受ける

**Nくん**

### 『モハメド・ラシュワン選手の国際フェアプレー賞』 元柔道家

1984年、ロス五輪。それまでに194連勝中、金メダル最有力候補選手だったのが、山下康裕選手です。過去7年間、世界中の誰も彼に勝つことができませんでした。そんな中で行われたロス五輪2回戦。山下選手は右足のふくらはぎの肉離れを起こしました。それでもなんとか優勝しました。試合後に行われた記者会見。決勝の相手モハメド・ラシュワン選手のコメントに対して、国際フェアプレー賞が贈られました。そのコメントとは…

「山下のケガをした足を狙ってまで、金メダルを取る気はなかった。それは、自分の生き方に反するからだ。」

### ★★★ コーチングの現場より ★★★ Jr. 選手育成コース内ランキング戦 《7～9月期》結果より

#### ◎Jr. 選手育成コース(Jr. チーム)内ランキング戦とは

Jr.チームでは、毎週土日の朝にシングルス試合を数多く行っています。その結果を3ヶ月に1度集計し、チーム内ランキングを出しています。このランキング戦の主旨は、「ゲーム性を磨く」「お互い良きライバルとして向上し合う」そして「主体性向上」です。

#### ◎ランキング戦直前のウォーミングアップ

試合前30分間のウォーミングアップは、子どもたちに任せています。コーチはコート内にいますが、子どもたちの行動に口を出すことはまずありません。

意識が高い子は、よいウォーミングアップをします。意識がまだ低い子は、それなりのウォーミングアップをします。この時に、コーチは口を出しません。それなりのウォーミングアップをしていたのでは「実力を発揮することができないという経験」を積み重ねることの方が重要だからです。「どのくらいの準備だと、本番ではどうなるのか」を、選手は肌で感じられる能力を身につけなければなりません。感覚です。この感覚を磨くには、「失敗と成功の2種類の体験」と、それらの「結果に対する考察」が必要になります。

### 『ふたつのことば』

～ふたりの小学4年生のコメントを紹介します～

「私には、何が足りないですか!?!」

みんなでボールを集めているときに、小4の女の子がコーチに尋ねてきました。この子のランキングは今回下がってしまいました。

「あいつにあって、俺に無いもの…」

小4の男の子が、練習帰りの車の中で、お母さんにそうつぶやいたそうです。この子のライバルの男の子は、今回ランキングを大きく上げていました。

ランキングを発表した日、コーチは子どもたちへ話しました。

「納得がいけないのなら、行動を変えよう。」

「昨日と同じなら、明日も同じです。」

「本気とは」…その感覚に気づいた人から変わりはじめます。

男の子はこの日、車から降りたあと、自分の部屋へ入ったきりしばらく出てこなかったそうです。あとでお母さんが聞いてみると

「さっき気づいたことを、ノートに書いていたんだよ。」